

NPO法人現代の教育問題研究所主催

第五回近江の子ども俳句教室

〈投句部門〉

作品集



後援

滋賀県・大津市・草津市
滋賀県教育委員会・大津市教育委員会・草津市教育委員会
草津俳句連盟・えふえむ草津・FMおおつ・エフエム滋賀
産経新聞社・中日新聞社・朝日新聞大津総局
読売新聞大津支局・毎日新聞大津支局

はじめに

日本には伝統文化という言葉があります。長い歴史の中で育まれた日本独自の芸術や習慣のことです。その一つに俳句があります。

その俳句に親しんでほしいという気持ちで、「第五回 近江の子ども俳句教室・投句部門」を開催しました。多くの皆さまが応募をしてくださいました。

俳句の楽しさは、たった十七音で色々なことを表現できるということです。自然の美しさや季節の変化、日々の出来事等、自分の目で見たものや感じたことを言葉にすることです。そのことで、自分の世界を広げたり、他の人と共有したりできます。また、俳句には「季語」という季節を表す言葉が必ず入ります。

例えば、「桜」や「花見」は春の季語、「かき氷」や「海水浴」は夏の季語、「紅葉」や「月見」は秋の季語、「雪だるま」や「北風」は冬の季語です。季語を使うと、季節感や情景が分かりやすく表現できます。また、読む人の心に響きます。そんな俳句の楽しさを子ども達に知ってほしい、経験してほしいと考えたのがこの企画です。大人になってからは、俳句を始め、趣味として楽しんでいる人の多くは、小学生の頃、初めて俳句を作ったという話をされます。子ども頃の頃の経験が、大人になった時にも役立つことになったらうれしいなと思っています。

この企画の主催者は特定非営利活動法人「現代の教育問題研究所」です。国語を大事にしようという志を持った人達の集まりです。

皆さんの作品を丁寧に読み、感謝の気持ちを込めて作品集にまとめました。

最後になりましたが、本事業にご後援、ご支援、ご協力を賜りました関係の皆様に心よりお礼申し上げます。

令和六年二月四日

特定非営利活動法人「現代の教育問題研究所」

理事長 吉永幸司



滋賀県知事賞

滋賀県草津市立志津小学校

5年

お正月 あのだも 行きよく

竹内勇樹

【選評】勇樹さんは、弟さんが大好きであり、兄弟の仲が良いということがよくわかる俳句です。とくにそのことにつながる言葉は書いていません。しかし、句を読んでいると、そのことがよく分かるのです。それは、「あの弟」でなく「あの弟も」と書いているからです。いつもの家族の様子を見習って、弟さんも行儀よくしていたのでしよう。「お正月」からいろいろな様子が思い浮かぶ季語と「あの弟」との「あの」という言葉が作品をひきしめています。

吉永幸司（理事長・京都女子大学附属小学校副校長）

大津市長賞

埼玉県春日部市立武里西小学校

6年

うろこ雲 隣町まで 続いている

金子大河

【選評】とてもよく晴れた秋の空に現れるうろこ雲。秋らしい空だなあと感じます。魚のうろこのように、小さな白い雲のかたまりが空一面に広がり、隣町まで続いている様子を発見した大河さんは、晴れ晴れとした気持ちになつて秋の空を眺めていたのではないでしようか。素直な気持ちを言葉にした大河さんの俳句を読んだ人も、一緒に空を見上げているようなゆつたりとした気分になります。自然の雄大さを感じる素晴らしい作品です。

三上昌男（元近江八幡市立金田小学校長）

草津市長賞

京都女子大学附属小学校

1年

あおいそら どんぐりいっぱい おちてこい

相木 啓

【選評】青い空にそびえるどんぐりの木。きつとたくさんのだんぐりができていることでしょうかね。けいさんは、どんぐりを使って、いろいろなおもちゃ（どんぐりごまややじろべえなど）やかざり、ゲームもしてみたいな思っているのでしょうか。友だちといっしょにどんぐりで遊んでみたいと思つているけいさんの気持ちが伝わってきます。けいさん、どんぐりがおちてきたら、友だちといっぱいひろってくださいね。

山田定子（野洲市立北野小学校）

滋賀県教育長賞 滋賀県長浜市立虎姫学園 4年

冬休み ひとりぼっちの ランドセル 山口莉央

【選評】毎日、ランドセルを背負って元気に登校した二学期。でも今は、ランドセルは部屋のかたすみでひっそりとすごしていることでしょう。学校で元気にすごす莉央さんのすがたと、静かな冬休みとを対比させてあらわしたすばらしい作品です。ランドセルを大切にしている莉央さんの思いも伝わってきます。しばらく休んだランドセルを背負って、三学期もすばらしい学校生活をおくってくださいね。

北島雅晴（野洲市立北野小学）

大津市教育長賞 京都女子大学附属小学校 4年

とびばこで いわしぐもまで ひとつとび 沼波明希

【選評】いわし雲は、秋のさわやかな雲ですね。体育館での、とび箱。勢いよく走り、とび箱に両手をしっかりとつかって、体をうかせ、マットに着地する。友達とはげましあって、みんなで練習をする。明希さんは、その勢いのさまを、体育館をこえ、空のいわし雲までとどくように感じたのですね。「ひとつとび」という終わりの5音で、きっぱりとした俳句の勢いが感じられました。俳句に、よいリズムが生まれ、まとまりもよくなりました。

高野靖人（NPO法人現代の教育問題研究所理事）

草津市教育長賞 京都女子大学附属小学校 3年

原っぱで ごろんとねると いわし雲 川畑まい

【選評】秋晴れのもと、原っぱに寝転がる気持ちよさが一番に伝わってきました。きつと、まいさんはとても幸せな気分だ寝転がっていたのでしよう。いわし雲が広がる空の豊かな光や、原っぱを包むやわらかな風が、この一句からあふれ出してくるようです。感じたことを素直に表現できるまいさんだからこそ、読み手もまいさんと同じように幸せな気分になるのでしよう。これからも、感じたままに俳句を詠んでほしいなと思います。

少徳 信（彦根市立高宮小学校）

草津俳句連盟会長賞

滋賀県大津市立膳所小学校

2年

ピアノをね ひいてるぼくは 若葉晴れ

岡本圭史

【選評】圭史さんは、ピアノを弾くのが好きなのですね。初夏の生命感あふれる若葉のころに、大好きな曲をうきうきした気分で弾いている様子が、ありあありと伝わってきました。シヨパンでしようか、モーツアルトでしようか。「ひいてるぼくは若葉晴れ」と、「若葉晴れ」という季語を持ってきたところに圭史さんの詩的なセンスが輝いています。まだ2年生なのに、よく「若葉晴れ」という季語を知っていましたね。私も圭史さんのピアノを聴いてみたくなりました。

好光幹雄(実行委員長・大津市立膳所小学校)

朝日新聞大津総局長賞

京都女子大学附属小学校

2年

さつまいも ほくほくおかわり あと二本

宮村柚希

【選評】「さつまいも ほくほく」と読みながら、「きつとやきいものことだな」と思いました。また、「ほくほく」からは、できたてのおいしそうなやきいもが見えてくるようです。ゆずきさんはことばの続け方がうまい！と感心しました。続く、「ほくほくおかわり あと二本」もリズムよく、ゆずきさんの、にっこりえ顔の大きな声が聞こえてくるようです。明るくてリズムのよい楽しい句になっていて素晴らしいです。

森 邦博(副理事長・京都女子大学非常勤講師)

毎日新聞大津支局長賞

京都女子大学附属小学校

6年

帰り道 夕日の紅さ 彼岸花

飯島彩日

【選評】夕日、紅、そして彼岸花。作品全体から赤いイメージが広がってきます。どこからの帰り道でしょうか。美しい紅に包まれている彩日さんの様子がうかんできます。今日一日がんばったぞという思い、明日もがんばろうという思いを感じることができました。美しい風景をとらえることができ、彩日さんの感性がひかる作品です。彼岸花のような情熱と、夕日のようなあたたかな思いをこれから大切にしてください。

北島雅晴(野洲市立北野小学校)

産経新聞社賞

埼玉県春日部市立武里西小学校

6年

柿実る 幾日寝れば 熟すかな

鶴岡幸太

【選評】スーパーで見る柿ではなく、自分で大切に育て、実らせた柿はひとときおいしいに違いありませんね。無事味わうことができたのでしょいか。「幾日寝れば」とあるように、毎日楽しみに見守っている様子がほのぼのと伝わってきます。柿は熟すと鳥との競争になったり、収穫した日で味も変わらないでしょいか。幸太さんの待つ姿と周りの自然の様子に想像が広がる大変魅力的な句です。

蜂屋正雄（野洲市立北野小学校）

読売新聞大津支局長賞

和歌山県有田川町立鳥屋城小学校 6年

炎天下 放つシュート ネットゆらす

東 奏真

【選評】「炎天下」は、太陽の日差しが強く、焼け付くような真夏の空を表す季語です。炎天下でのサッカーの練習中なのか、試合中なのか。奏真さん自身なのか、他の選手なのか。力を込めて蹴ったボールが、ゴールネットを揺らしたのでしよう。暑さを吹き飛ばすように、思わず「ゴール！」と叫びたくなります。「放つシュート」という言葉が力強く鋭い感じを表し、「ネットゆらす」がゴールした喜びを伝え、ゴールシーンを見事に表現できました。

三上昌男（元近江八幡市立金田小学校長）

中日新聞社賞

滋賀県野洲市立北野小学校 3年

ざくろの実 かたまってるぞ なかよしだ

上原璃仁

【選評】ザクロは、つゆのころ明るいオレンジ色の花をつけ、秋の初めにまるい実をつけます。その実はじゅくすとわれて、赤いゼリーにつつまれたたくさんさんの種が顔を出します。璃仁さんは、ザクロを手にしたとき、種がびっしりつまっている様子が、クラスの友だちが集まっているのとそっくりだと発見したのですね。「くぞ」、「くだ」と強い調子の言葉を重ねているところからも発見のうれしさが伝わって来る句になりました。

森邦博（副理事長・京都女子大学非常勤講師）

えふえむ草津賞 滋賀県彦根市立河瀬小学校 4年

にいちゃんさんぼですすき 見つけたよ 小林碧葉

【選評】散歩をしているときに、道ばたのすすきを見つけたのでしよう。上五の「にいちゃん」から、兄弟で仲良く散歩をしながら話したり笑ったりする姿が浮かんできます。きつと、大好きなお兄さんなのでしよう。お兄さんを大切に思う碧葉さんの優しい心が、やわらかく輝くすすきを通して豊かに伝わってきます。句をひらがなで書いたことで、すすきを見つけたときのおだやかな時間や様子がやわらかく感じられる一句に仕上がりました。

少徳 信(彦根市立高宮小学校)

エフエム滋賀賞 大阪府吹田市立千里第三小学校5年

まだ粘る 新米のくせに 超頑固 鶴田淳悟

【選評】淳悟さんは学校でお米について学ばれたのでしようか。刈り取られた新米について書かれており、新米という季語から晩秋の清涼感を感じ取ることができそうです。新米を食べた時の粘り気が頑固に続いていることを、「くせに」という言葉で新米を擬人化し、ユーモアに表現できています。また、「新米」という言葉には、「経験の少ない人・新人」という意味があることから、「新人のくせに粘り強く頑固だな」という掛け言葉を取り入れたところに、淳悟さんの言葉のセンスが光ります。

畑中翔太(天津市立田上小学校)

FMおおつ賞 京都女子大学附属小学校 5年

秋が来て 余計なお世話 「上着着て」 上田和輝

【選評】「上着着て」という言葉は、厳しい残暑が和らいだ日、外へ元気よく駆け出そうとしたときにおうちの中から聞こえてきた家族の声だったのでしようか。余計なお世話と表した言葉は、お節介な気持ちを表したはずなのに、ほのぼのとした温かい家族の雰囲気を感じることもできます。また、上五と下五を「きて」と韻を踏むことによって、とてもリズムカルに読める作品に仕上がっています。和輝さんの巧みな言葉選びが光る俳句です。

海東貴利(高島市立安曇小学校)

【入選作品】 45句 おめでとういぎいます。

京都府京都市立四条中学校

あと三日 おまえは風か 夏休み

中1年 青木裕希

京都府 立命館小学校

草紅葉 公園うまる 赤い海

6年 奥村涼司

滋賀県大津市立中央小学校

夏やさい ぽりぽりかりかり 音楽会

2年 服部 蘭

庭花火 数秒だけの 花ばたけ

3年 服部純玲



和歌山県有田郡有田川町立鳥屋城小学校

彼岸花 宿命ならば それでよし

5年 岩本琉衣



滋賀県大津市立瀬田小学校

いちようのは 黄色くなつたね 秋の空

2年 今井萌那

夏休み やけてひりひり かゆいな

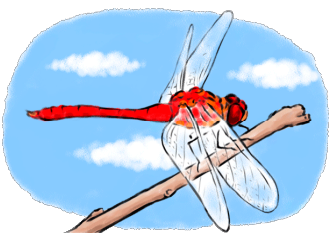
2年 安藤帆花

滋賀県野洲市立北野小学校

かまきりは	自まんのかまで	にがさない	3年	林田朋樹
かまきりや	ぎらりぎらりと	目がひかる	3年	栗山友愛
ひがん花	王かんみたい	かぶりたい	3年	岡野航大

滋賀県大津市立膳所小学校

秋風に	勝負のつかない	将棋かな	2年	島津寿大
青い空	きんもくせい	歌ってる	3年	持田知砂
冬の池	かちんこちに	凍ってる	3年	奥村旺生



滋賀県長浜市立虎姫学園

ひまわりが	ぐんぐんのびて	ぬかされた	1年	野村紗永
どんぐりを	りょうてい	いっぱい	1年	饗場琉唯
まってるよ	オオカマキリの	赤ちゃんを	2年	太田イオリ
白と黒	シマウマ模様の	水着あと	4年	城下航輝

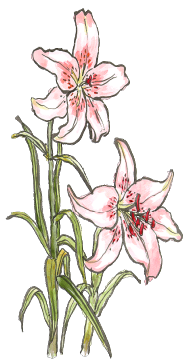


埼玉県春日部市立武里西小学校

校庭で	今日も落ち葉と	おにごっこ	6年	山崎悠翔
満天の	こんぺいとうや	秋の空	6年	飯島新菜
帰り道	この指とまれ	赤とんぼ	6年	甲斐日理
木々たちが	ファッション	始めた	6年	新幡隼也

京都府 京都女子大学附属小学校

いいかおり	せんとくものに	キンモクセイ	1年	岩井葵夢
あおいそら	どんぐりプールに	とびこむよ	1年	金田紗知
あきみつけ	きのみあつめた	たからばこ	1年	二上翔伍
どんぐりは	コロコロころん	かけまわる	1年	新谷知子
あきがくる	かわるはっぱの	しんごうき	1年	長尾紗帆
アキアカネ	めのまえをとび	ゆびのばす	1年	城戸紅葉
赤とんぼ	くもの上まで	とぶのかな	2年	竜野愛未
やわらかい	わたしはきのこ	だいすきよ	2年	宮田優楽
ひがん花	ごせんぞさまも	見てるかな	2年	三原彩世
金魚すくい	やぶれはしない	夏の夢	3年	高寄 湊
カブトムシ	つかまえたいが	とどかない	3年	井腰篤人
かき氷	三色シロップ	大げんか	3年	平住 星
赤とんぼ	かたにいつびき	とまってる	3年	小澤奈央



「行ってきます」 開けてびっくり 朝やけと月

雨の朝	人と朝顔	顔あらう	4年	浮村美千子
スーパ一の	さんまが高い	母仰天	4年	安原識子
屋台来た	ほくほくあまい	薩摩芋	5年	小塩春菜
いねかって	ザクリとひびく	手と耳に	5年	山西睦美
影踏み	先に追いつく	白い息	5年	畑中萌佳
ロープウェー	紅葉見ながら	上ってく	5年	田仲那帆
夜の川	ほたるが橋を	つくってる	6年	平 大嗣
気まぐれな	綿毛のように	旅したい	6年	村田絢莉
落ちていく	自分の世界	読書の秋	6年	山中萌加
草原を	燃やしつくすと	ひがん花	6年	寺尾和花
			6年	佐々木もも

あとがき

特定非営利活動法人「現代の教育問題研究所」主催、「近江の子ども俳句教室」(投句部門)は、今回で第5回を重ねることができましたことを、先ず始めに御礼申し上げます。

今回の募集に対しましても全国各地の学校、ご家庭から、前回まで同様に、多数の応ご参加を頂くことができました。実行委員一同は大変喜んでおります。ありがとうございます。

さて、応募作品を読んでいると、「五音+七音+五音」のわずか十七音の言葉を組み合わせですが、一作一作から、豊かな表現ができるんだなど、改めて気づかされます。また、選んである言葉の組み合わせを工夫すると、実に多彩な情景が、写真や絵画の画面を見るように浮かんできたりもします。そして、作者の心の中の思いを想像しながら楽しんでいることにも気づかされます。俳句の楽しさは、作る楽しさと同じように、読む楽しさもあることが分かります。

この作品集に掲載されている俳句を一つ一つ読んで、作者のすぐそばにいますつもりで、楽しんでみてください。

「私ならこんな言葉で書くけど、作者のあなたが見つけて表現した言葉にしてみると、もっと楽しいなあ」とか、

「作者の○○さんは、きつとこう考えたり、感じたりしているのじゃないかな、この言葉の選び方からそれが分かるよ」などと、

心の中で作者に話しかけながら読んでみてください。友だちやおうち人みんなといっしょに読むのも、おすすめです。

「発見の俳句だ」とか、「頑張ったことの俳句だ」や、「この句の作者は私の友だちや家族にしている。こんなところ…」などなど、それぞれから作者の思いを受け取っての会話も楽しい時間となることでしょう。また、この作品集から一句選んで「私のいち推し句」を紹介し合ってみるのも楽しい時間になることと思います。

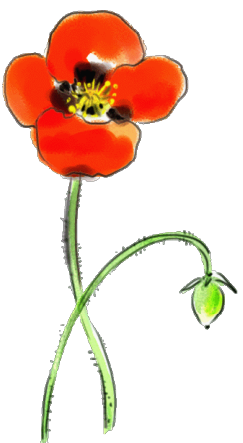
言葉を通して互いの思いをわがことのように感じて分かち合い、理解し合う「国語の人間力」が育っていくことを切に願っています。

最後になりましたが、この度の事業に対してご後援を賜りました滋賀県知事様はじめ、大津市、草津市、滋賀県教育委員会、大津市教育委員会、草津市教育委員会、草津俳句連盟、エフエム滋賀、FMおおつ、えふえむ草津、朝日新聞大津総局、毎日新聞大津支局、読売新聞大津支局、中日新聞社、産経新聞社に厚く御礼申し上げます。併せて、事務局よりお問い合わせや確認等につきまして懇切丁寧に対応をしてくださいます。関係者を代表して心より御礼申し上げます。

令和六(2024)年二月吉日

特定非営利活動法人「現代の教育問題研究所」

副理事 森 邦博

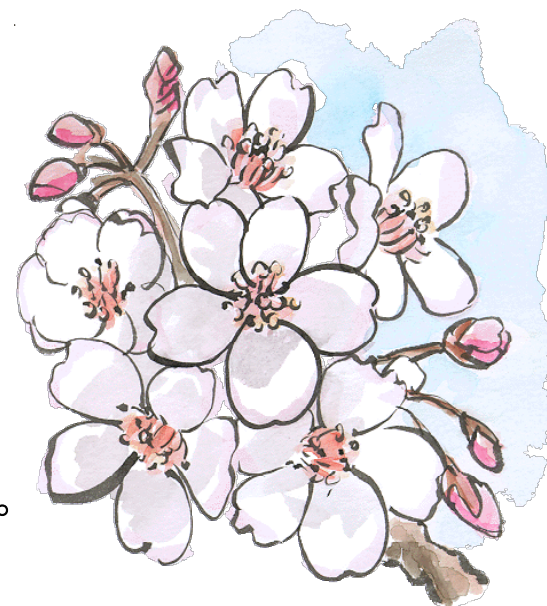


第五回近江の子ども俳句教室〈投句部門〉作品集

発行：2024年3月3日

編集：好光幹雄

発行責任者：NPO法人現代の教育問題研究所



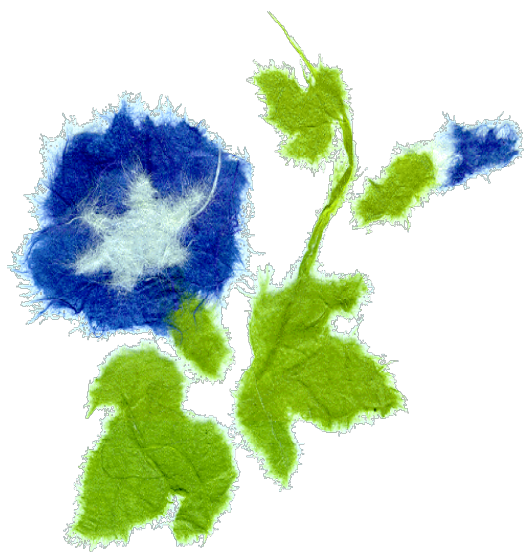
NPO法人現代の教育問題研究所

理事長 吉永幸司 <http://kokugo-npo.com>

『国語力は人間力』

この理念のもとに基本的な3つの柱で事業及び活動をすすめています。

- ◇ 国語力・心の教育の指導技術向上及び継承を行う活動
- ◇ 国語力・心の教育の実践を広く行う事業
- ◇ 国語力・心の教育の重要性を広く周知する活動



☆さざなみ国語教室 代表 吉永幸司 (元京都女子大学教授)

～42年以上続く国語教育に関わる教師の研究サークル～

<http://www.eonet.ne.jp/~sazanamikokugo/>

☆近江の子ども俳句教室 実行委員長 好光幹雄

～子ども俳句の普及と指導者の育成をめざして～

m4432@ymail.ne.jp

- ◆コメントを添えた入賞作品は「えふえむ草津 78.5 MHz」のオンデマンド放送で何時でもPC・スマホで聞けます！番組「俳句5・7・G oの時間！」2024年2月放送分をどうぞ。
- ◆学校への俳句の出前授業や教師のための俳句講座もしています！